

戦跡を
旅する

KANOYA



日本で最も多くの 特攻隊員が飛び立った 「鹿屋」を訪ねる



(イメージ画像)

戦時中、鹿屋には3つの飛行場(笠野原・鹿屋・串良)がありました。なかでも鹿屋基地は、昭和11年に鹿屋海軍航空隊が開隊して以降、上海渡洋爆撃から終戦に至るまで、海軍の重要基地として活動し続けました。昭和16年、真珠湾攻撃の作戦計画が練られた「鹿屋会談」が鹿屋基地内で行われ、対米戦争が始まるきっかけとなりました。

戦争が激化すると、昭和20年2月に第五航空艦隊司令部が鹿屋に設置され、鹿屋から各基地へ特別攻撃の命令が下されるようになります。

鹿屋基地からは日本で最も多い九〇八名の特別攻撃隊員が出撃し、戦死しました。基地(現在の海上自衛隊鹿屋航空基地)周辺には、今もなお多くの戦争遺跡が残されています。



桜花を積んで出撃する一式陸攻



世界で唯一現存する
二式大型飛行艇

①鹿屋航空基地史料館



零式艦上戦闘機五二型(復元機)

まずはココへ!

ドラマ
永遠の0
ロケ地

海軍航空の歴史資料館で、館内には旧海軍創設期から先の大戦、現在の海上自衛隊の活動に至るまでの貴重な資料が展示されています。

【場所】鹿屋市西原3-11-2

【電話】0994-42-0233

【休館】年末年始のみ

【時間】9:00 ~ 17:00

(入館は16:30まで)

【料金】無料



鹿屋市観光物産総合センター

鹿屋航空基地史料館に隣接する物産館。レストランと無料休憩所も完備しています。



③小塚公園(旧鹿屋航空基地特別攻撃隊戦没者慰霊塔)

鹿屋基地から出撃し命を落とした特別攻撃隊員908名の御霊を祀る慰霊塔があり、桜の花咲く4月には慰霊祭が行われています。

【場所】鹿屋市今坂町12560(西原台小学校近く)



②桜花の碑・野里国民学校跡



国旗掲揚台跡

戦争末期、人間爆弾・桜花作戦を行った神雷部隊は野里国民学校を宿舎としていました。

特別攻撃隊員たちが別れの盃を交わした地に建つ「桜花の碑」は、当時報道班員として神雷部隊と生活を共にした作家・山岡荘八氏が揮毫したものです。

【場所】鹿屋市野里町(朝日神社隣)



鹿屋基地 周辺の 戦争遺跡



④田崎掩体壕

鹿屋基地の南側に、軍用資材を入れていたと思われる掩体壕が残っています。

【場所】鹿屋市田崎町

⑤第五航空艦隊司令部壕跡

この司令部壕から、特別攻撃作戦の作戦指揮が行われました。(私有地のため、壕への立ち入りはできません。)

【場所】鹿屋市新生町

特攻隊の足跡が残る

串良^{くし}エリア^ら

ドラマ
永遠の0
ロケ地

串良基地から飛び立った特別攻撃隊員が突撃前に送る電信を受信していた地下壕です。壕内では現在、音声ガイドダンスによるモールス信号の再現など、当時の様子を追体験することができます。

【場所】鹿屋市串良町有里4963-2

【見学可能時間】9:00～16:00(年末年始は見学不可)

① 串良基地跡の地下壕第一電信室



串良基地は、太平洋戦争末期に教育航空隊として開隊され、約五千人の飛行予科練習生が航空機の整備・搭乗・通信等の猛訓練を受けました。

昭和19年4月には美戦部隊に編入され、昭和20年3月からは特別攻撃隊の基地として使用されました。

昭和20年8月15日の終戦を迎えるまでに、三六二名の特別攻撃隊員と二〇名の一般攻撃隊員が串良基地から飛び立ち、その若く尊い命を失いました。



② 平和公園

串良基地から飛び立ち戦死した特別攻撃隊員・一般攻撃隊員を祀る慰霊塔が建立されています。滑走路跡の2本の直線道路は桜の名所としても知られています。

【場所】鹿屋市串良町有里5660-1



③ 大塚山公園

戦争末期、志布志湾からの米軍上陸に備えた部隊が置かれ、観測等が行われていました。頂上付近の展望所からは志布志湾を見渡すことができます。

【場所】鹿屋市串良町有里2918-1



ドラマ
永遠の0
ロケ地



④ 笠野原基地地下道入口跡

【場所】鹿屋市笠之原町
 (笠野原小学校から南へ300m)

笠野原飛行場は、大正11年に大刀洗陸軍飛行場(福岡県)の離着陸用の民間飛行場として誕生しました。

真珠湾攻撃に参加した第二航空戦隊艦爆撃隊も、この飛行場を使用していたとされています。

昭和20年3月18日以降に米軍による集中爆撃を受けると、格納庫を始めとする基地施設は大きな被害を受けました。

東西・南北に一本ずつ滑走路が伸びていましたが、終戦後に払い下げられ、現在は農地や住宅地が広がっています。

幻の基地となつた 笠野原エリア

敵機の空襲等から飛行機を守るために作られた格納庫です。
 戦時中には零戦が入っていたと言われています。

【場所】鹿屋市川東町8206-5



⑤ 笠野原基地跡の川東掩体壕

えんたいこう

笠野原の
 戦争遺跡



串良の
 戦争遺跡



霧島ヶ丘上空からの写真
(戦時中に米軍機撮影)



撮影
ポイント



霧島ヶ丘展望所

国道269号線から霧島ヶ丘公園に
上る坂の中腹から、鹿屋基地や周辺一
帯を見渡すことができます。



① 大隅野里 駅跡

昭和20年3月19日の空襲により貨車が爆発し、多くの犠牲者が出ました。昭和62年に国鉄大隅線は廃線となり、線路跡は自転車歩行者専用道路(フィットネスパス)として利用されています。



② 第二鹿屋海軍航空隊の碑

鹿屋基地の南側には第二鹿屋航空隊が置かれ、予科練生たちが訓練を行っていました。

【場所】鹿屋市野里町4499-1
(みつわ公園内)

鹿屋基地の南西部に広がる野里地区は、高隈山を背景に風光明媚な風景が広がっています。

しかし戦時中には、霧島ヶ丘の麓に第二鹿屋航空隊が置かれ、また大隅野里駅を基点に基地への引込線が敷かれるなど、軍事的に重要な地でした。

昭和20年3月18日以降、空襲が相次いだ地域でもあります。

旧線路跡が整備されており、ウォーキングやサイクリングにも最適なエリアです。

当時と変わらぬ風景を歩く

野里のさしエリア

「戦後」が始まった地

高須エリア
たかす



③金浜海岸(進駐軍上陸地の碑)

進駐軍が上陸した金浜海岸を見下ろすように、記念碑が建っています。

【場所】鹿屋市高須町(県道68号線沿い)

金浜海岸に上陸する進駐軍



終戦後の混乱の中、昭和20年9月3日に進駐軍の先遣隊が鹿屋基地に降り立ちます。先遣隊のシリン大佐は、「カミカゼ・ボーイはどこにいるか」と最初に質問したそうです。
そして翌4日進駐軍アメリカ海兵隊2,500人が高須の金浜海岸に上陸しました。
当時、鹿屋の多くの人々が進駐軍を恐れ、山間部に逃れたと言われています。



野里・高須の戦争遺跡



④高須トーチカ

米軍の本土上陸に備えて海岸部に作られたトーチカ(陣地)です。コンクリートのぞき窓は海岸方向に向けられています。

【場所】鹿屋市高須町(高須海水浴場脇)

